

農産 F A X 情報 第 8 号

令和元年 9 月 1 日

発行：ゆとりみらい 21 推進協議会 指導部会 幕別町忠類地区

台風 10 号から変わった温帯低気圧の影響で降雨がありました。その後も断続的な降雨があったため、病害の発生には引き続き注意しましょう。

1 秋まき小麦

作付前の今しかできない作業をしっかり行い、適期は種に備えましょう。

- ① 心土破砕
 - ・滞水しやすいほ場はサブソイラ等で心土破砕を行いましょ。土壌が湿った条件で施工すると土壌物理性を悪化させるのでほ場が乾燥した晴天時に施工しましょ。
- ② 除草剤散布
 - ・秋まき小麦ほ場のイネ科雑草は越冬後に対処できる薬剤がありません。秋処理を行いましょ。
 - ・散布の際は雑草が 15 cm 以上に成長した時期に行いましょ。
- ③ 土壌 p H の矯正
 - ・ p H 5.5~6.0 を目標に、は種前耕起とあわせて p H 矯正を行いましょ。

2 てんさい

- ① 褐斑病防除
 - ・9 月が高温で経過した場合に多発することがあります。ほ場確認をして、発生初期での防除を徹底しましょ。
- ② ヨトウガ防除
 - ・第 2 世代の発生時期は 8 月下旬~10 月下旬頃です。発生を確認したら直ちに防除を実施しましょ。
 - ・ヨトウガの幼虫は昼間、株元または心葉の間に潜んでいることが多いです。

3 ばれいしょ

【でん原用】

- ・生育後半の疫病発生は塊茎腐敗につながります。収穫まで日数がある場合は、薬剤の使用回数、収穫前日数に注意して必要に応じて防除を行いましょ。

【加工用】

天候不良によりほ場に水分が多いことが予測されます。収穫時期に注意しましょ。

- ・収穫は晴天が 2~3 日続き、土壌が乾燥して塊茎に付着しない状態になってから行いましょ。
- ・収穫した塊茎の表面が濡れていると、傷から菌が入り、腐敗しやすくなります。日光が当たらない場所でしっかり風乾しましょ。

4 豆 類

8月中旬から曇天、降雨の日が続き、多湿傾向に経過しています。多湿状態が今後も続くと病害が多発する恐れがあるので引き続き注意しましょう。

①菌核病・灰色かび病防除

- ・菌核病は多湿、灰色かび病は低温多湿条件で発生が助長されます。
- ・耐性菌の出現を抑えるため、ローテーション防除に努めましょう。

②雑草の抜き取り

- ・アカザ、アオゲイトウ等の雑草の発生が散見されます。雑草が種をつける前に抜き取りを行いましょう。

収穫時期は、農作業事故の多発期間ですので注意が必要です！
走行速度が遅くても、飛び乗りや飛び降りはやめよう！
作業中は適切な休憩で、疲労を回復させよう！

**※ 不明な点は JA または普及センターへ
お問い合わせください。**